



2023: 視障生社交與自主國際學術研討會議

日本視障兒童教育現況及問題

帝京平成大学

田 中 良 広

yoshihiro.tanaka@thu.ac.jp



2023: 視覚障害のある学生の社会的相互作用と
自主性に関する国際学術シンポジウム

日本の視覚障害教育の現状と課題

帝京平成大学

田 中 良 広

yoshihiro.tanaka@thu.ac.jp

內 容

介紹

1. 日本視力障礙兒童的教育現況
2. 日本視力障礙兒童的教育問題

コンテンツ

導入

1. 日本の視覚障害児教育の現状
2. 日本の視覚障害児の教育問題

介 紹

はじめに

了解日本身心障礙兒童教育體系的關鍵字

- 特殊需求教育
- 全納教育體系
- 合理的考慮

日本の障害教育制度を理解するためのキーワード

- 特別支援教育
- インクルーシブ教育システム
- 合理的配慮

從“特殊教育”到“特殊需求教育”

「特殊需求教育」是指了解每個兒童和身心障礙兒童的教育需要，支持他們獨立努力並參與社會。提供適當的指導和必要的支持，以提高學生的能力，改善或克服日常生活和學習中的困難。自2007年4月起，「特殊需求教育」納入學校教育法，要求各校進一步加強對幼兒和身心障礙學生的支持。

「特殊教育」から「特別支援教育」へ

「特別支援教育」とは、児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを理解し、自立して社会参加できるように支援することを指します。生徒の能力を高め、日常生活や学習上の困難を改善・克服するために、適切な指導と必要な支援を行います。2007年4月から学校教育法に「特別支援教育」が盛り込まれ、学校では障害のある児童・生徒への支援の一層の強化が求められている。

與特殊教育的區別

從基於地方的教育到基於需求的教育

擴大目標兒童和學生

了解每個人的教育需求

透過適當的教育和指導提供必要的支持

特殊教育との違い

場所ベースの教育からニーズベースの教育へ

対象児童生徒の拡大

一人ひとりの教育ニーズの把握

適切な教育・指導による必要な支援の提供

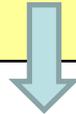
擴展到目標聽眾

特殊需求教育

特殊教育

小學 / 國中

學習障礙・注意力不足/過動症 特殊班
常規教學課堂



特殊需求班

盲人、聾啞人士及殘障學校



特殊需求學校

対象児童生徒の拡大

特別支援教育

特殊教育

小学校・中学校

学習障害・注意欠陥/多動性障害

特殊学級

通級指導教室

盲・聾啞・養護学校

特別支援学級

特別支援学校

發展包容性教育體系，打造有凝聚力的社會

在全納教育體系中，我們追求在同一個地方共同學習，我們以當時最恰當的方式回應有個人化教育需求的幼兒和學生的教育需求，並著重於獨立和社會參與。重要的是要有多樣化和靈活的機制來提供指導。有必要在小學和小學提供常規課程、課堂指導、特殊需求班級和特殊需求學校等連續不斷的各種「學習場所」。

インクルーシブ教育システムの構築と共生社会の実現

インクルーシブ教育システムでは、同じ場所で共に学ぶことを追求し、自立と社会参加を重視し、個別の教育ニーズを持つ幼児・生徒の教育ニーズにその時々最適な方法で応えます。ガイダンスを提供するための多様かつ柔軟なメカニズムを持つことが重要です。小・中学校においては、通常の教育課程、通級指導、特別支援学級、特別支援学校など、さまざまな「学びの場」を連続的に提供することが必要である。

合理的考慮

本該專委會的「合理的考慮」是指「確保身心障礙兒童與其他兒童平等地享有和行使其「受教育的權利」。“這是對殘疾兒童進行必要的、適當的改變和調整，這是個別殘疾兒童根據其情況接受學校教育所必需的。它還將內容定義為「在結構或財務方面不會給學校創始人和學校帶來不平衡或過度負擔的內容」。

本該專委會 = 特殊需求教育特別委員會

合理的配慮

本委員会の「合理的配慮」とは、「障害のある子どもたちが他の子どもたちと平等に『教育を受ける権利』を享受し、行使できるようにすること」を指す。「障害のある児童生徒がそれぞれの状況に応じて学校教育を受けるために必要かつ適切な変更・調整をいう。また、その内容を「学校の設置者や学校に構造的または財政的な面で不均衡または不当な負担を課さないもの」と定義しています。

本委員会 = 特別支援教育に関する特別委員会

合理的考慮

應當指出的是，《殘疾人權利公約》規定，拒絕提供「合理的考慮」屬於基於殘疾的歧視。

合理的配慮

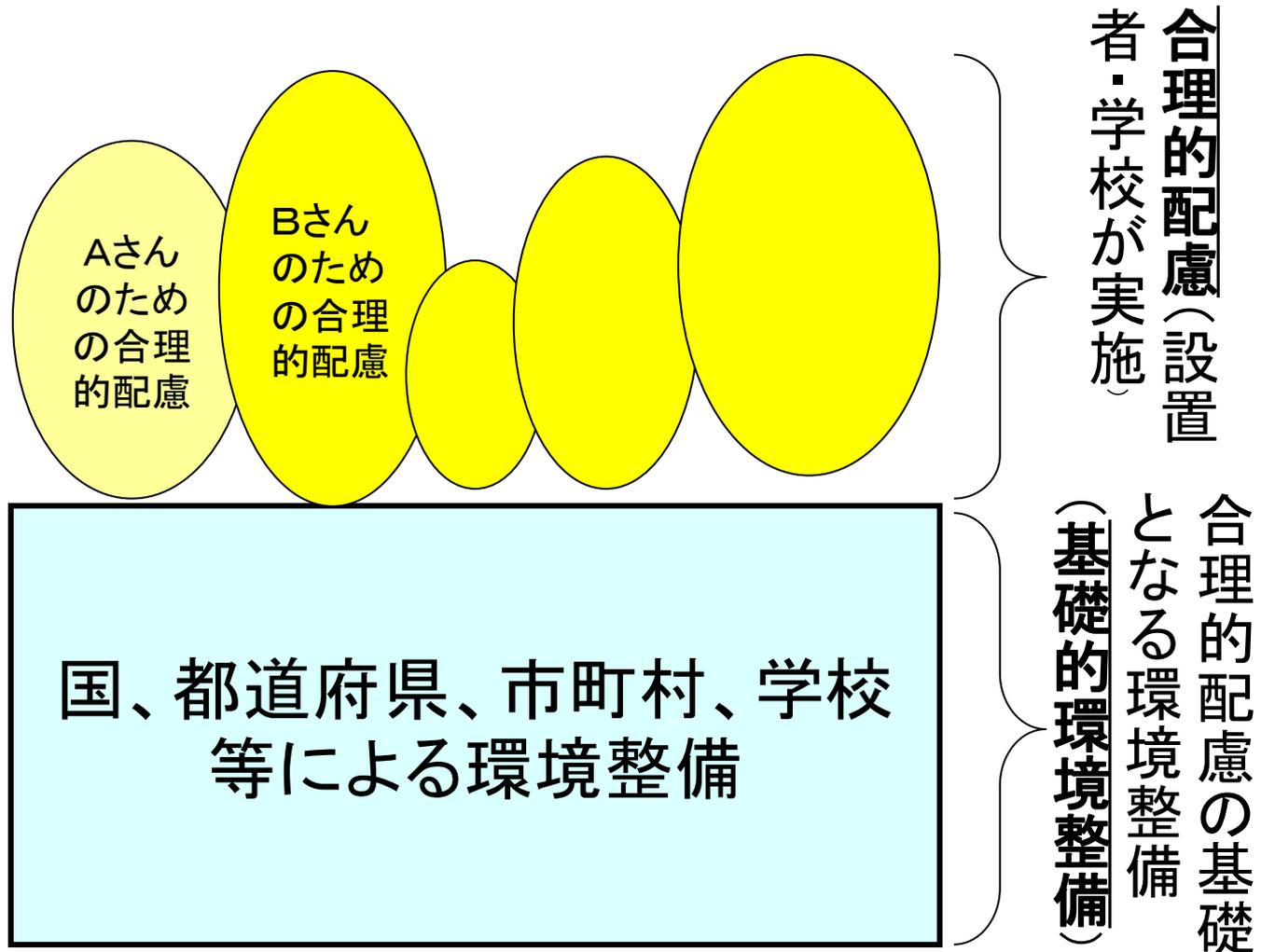
なお、障害者権利条約では、「合理的配慮」の拒否は障害を理由とする差別に当たると規定されている。

合理的考慮和基本的環境維護

學校創始人和每所學校為個人提供的
合理的考慮

政府、都道府縣、市町村、學校等
提供的
基本環境維護

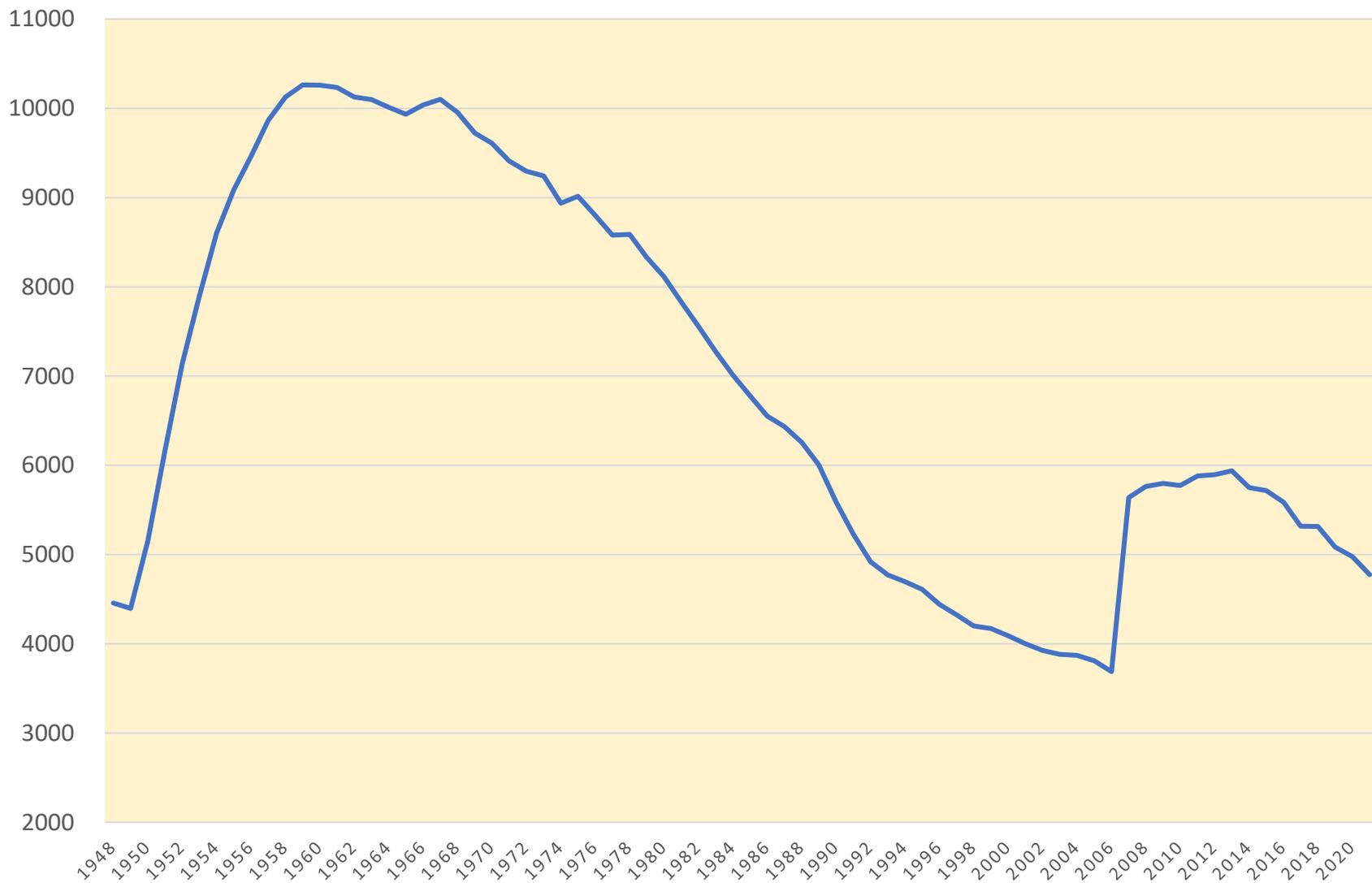
合理的配慮と基礎的環境整備の関係



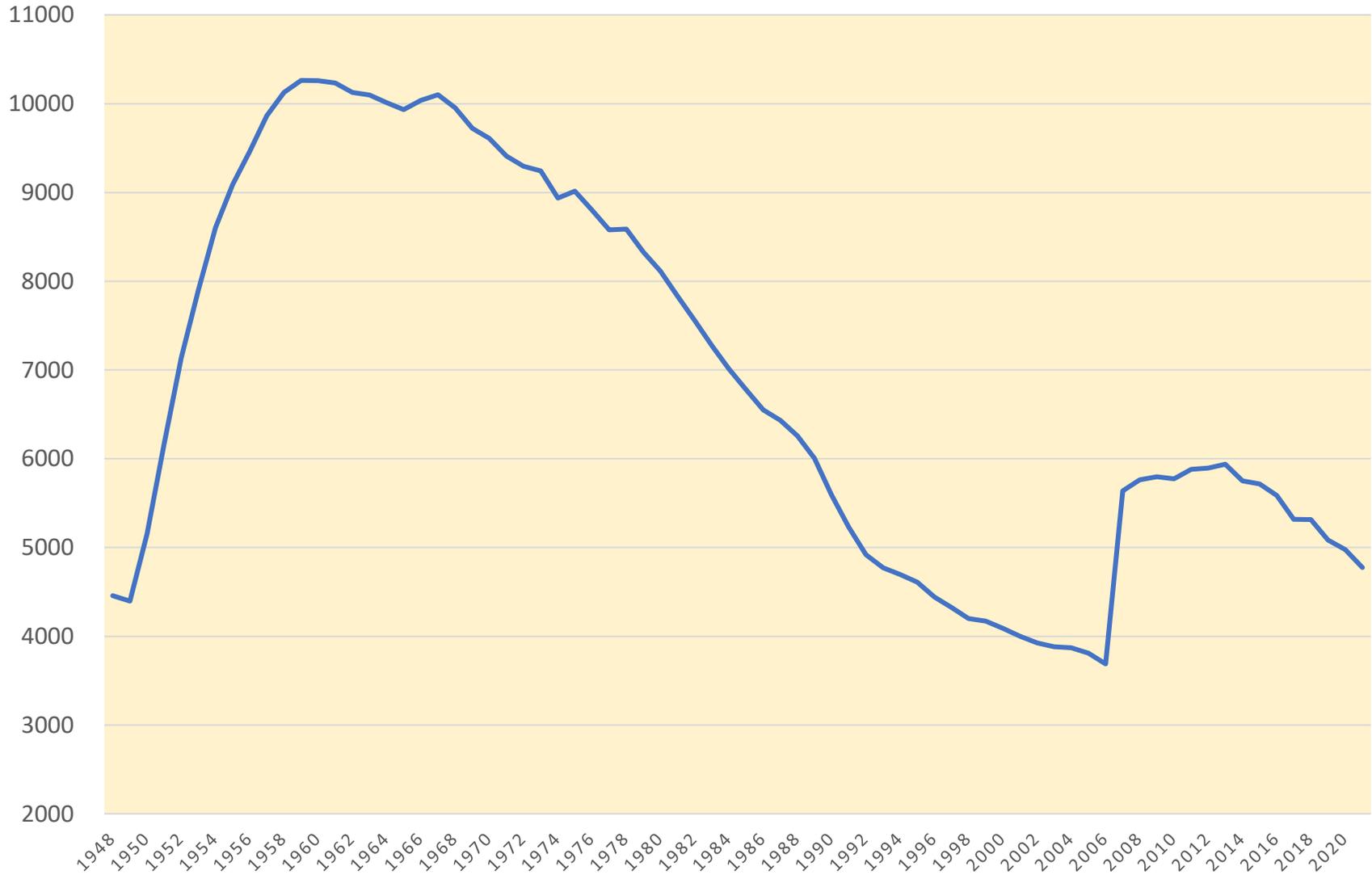
1. 日本視力障礙兒童的教育現況

1. 日本の視覚障害児教育の現状

盲人學校入學人數的變化



盲学校入学者数の推移



視障兒童和學生入學情況

特殊需求學校 (視力障礙)	學校數量	就讀學生人數						
		幼稚園	小學	國中	高中	學生總數		
86	2,117	196	1,534	1,037	2,211	4,978		
特需類 (低視力)	小學		國中		國中和高中		學生總數	
	班級數	學生人數	班級數	學生人數	班級數	學生人數	班級數	學生人數
	402	456	157	185	2	2	561	643
常規教學課堂 (低視能資源室)	小學		國中		高中		學生總數	
	191		27		4		222	

(2020年文部科學省特殊需求教育統計數據)

視覚障害児童生徒の在籍状況

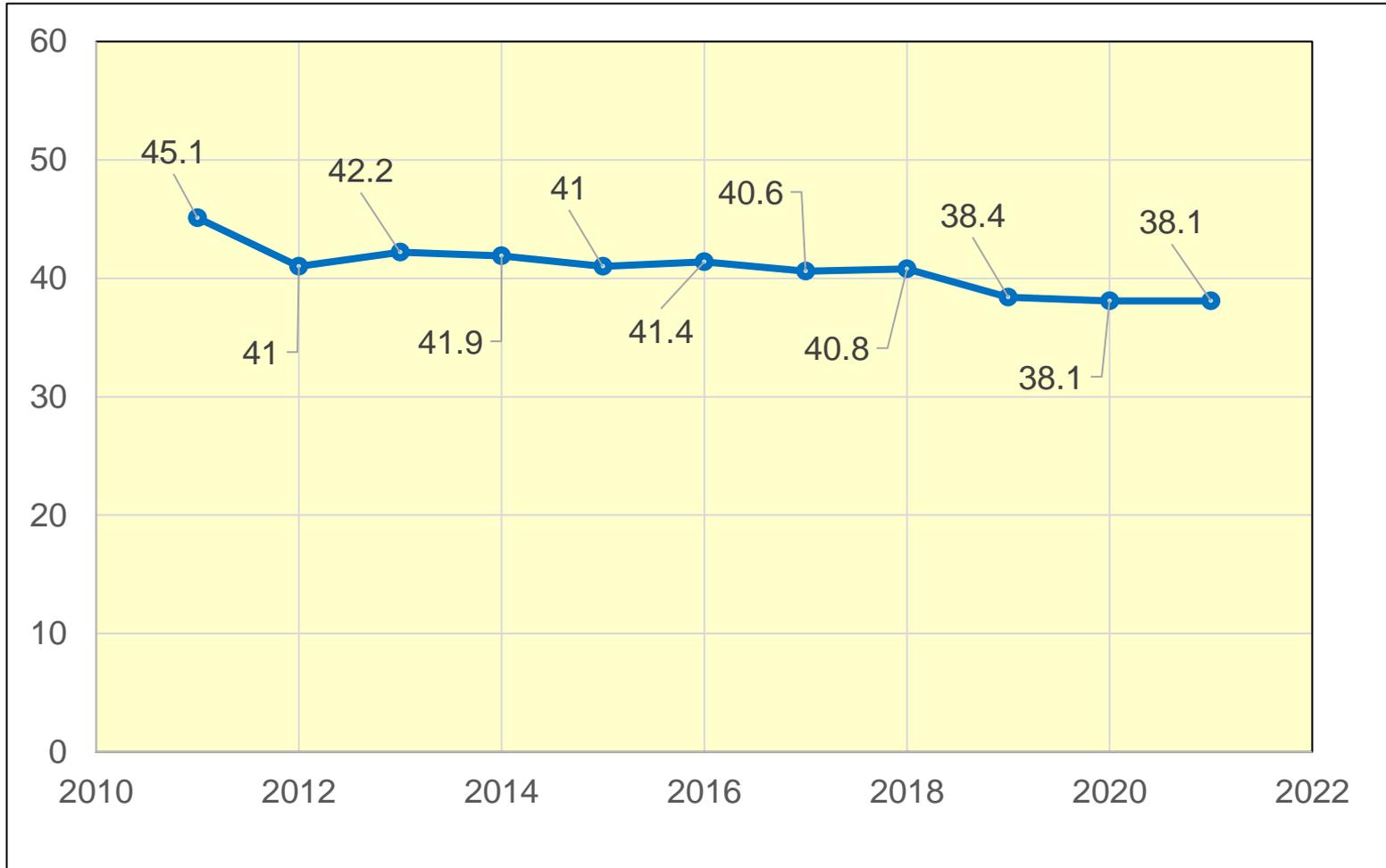
特別支援学校 (視覚障害)	学級数		在籍者数					
			幼稚部	小学部	中学部	高等部	合計	
86	2,117		196	1,534	1,037	2,211	4,978	
特別支援学級 (弱視)	小学校		中学校		義務教育学校		合計	
	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数
	402	456	157	185	2	2	561	643
通級による指導 (弱視通級指導教室)	小学校		中学校		高等学校		合計	
	191		27		4		222	

(令和2年度 文部科学省 特別支援教育資料)

盲校智障班入學率變化

小學和國中

%

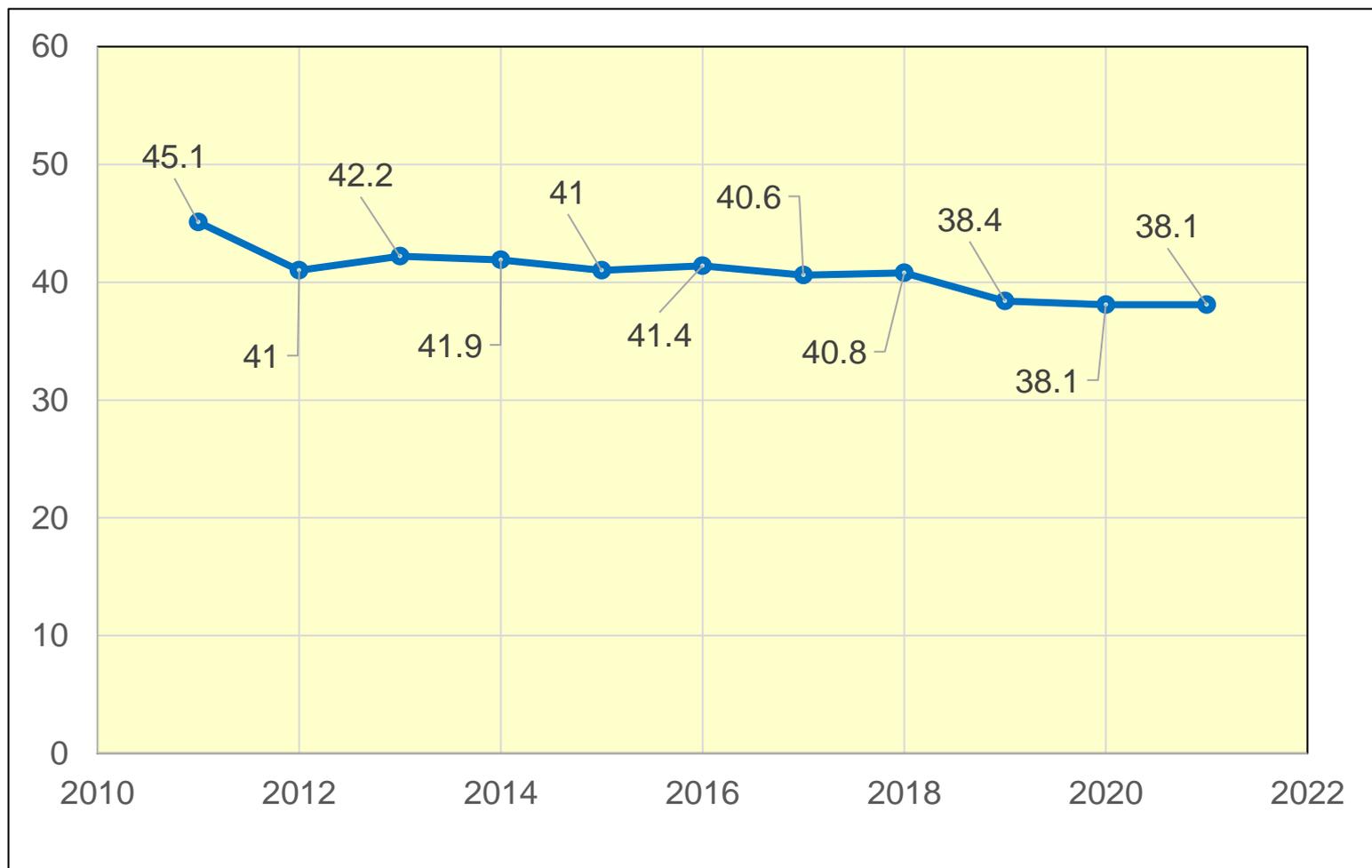


(2020年文部科學省特殊需求教育統計數據)

盲学校における知的障害学級の就学率の推移

小中学部

%



(2020年文部科学省特殊需求教育統計數據)

2. 日本視力障礙兒童的教育問題

2. 日本の視覚障害児の教育問題

日本的全納教育體系真的全納嗎？

日本のインクルーシブ教育システムは本当に
インクルーシブなのでしょうか？

教育體系的差異

歐美教育體系

殘障兒童
教育

普通教育

普通教育

殘障兒童
教育

日本的教育體系

教育制度の違い

欧米の教育制度

障害児
教育

普通教育

普通教育

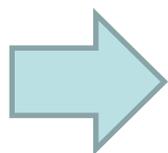
障害児教育

日本の教育制度

教育體系的差異

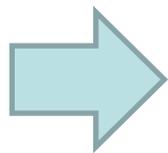
日本的教育體系

普通教育



幼稚園教育方針、
小學、國中、高中課程方針

殘障兒童
教育

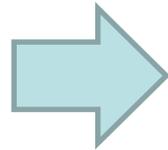


特殊學校課程指引：
幼稚園、小學、國中、高中

教育制度の違い

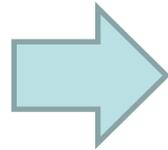
日本の教育制度

普通教育



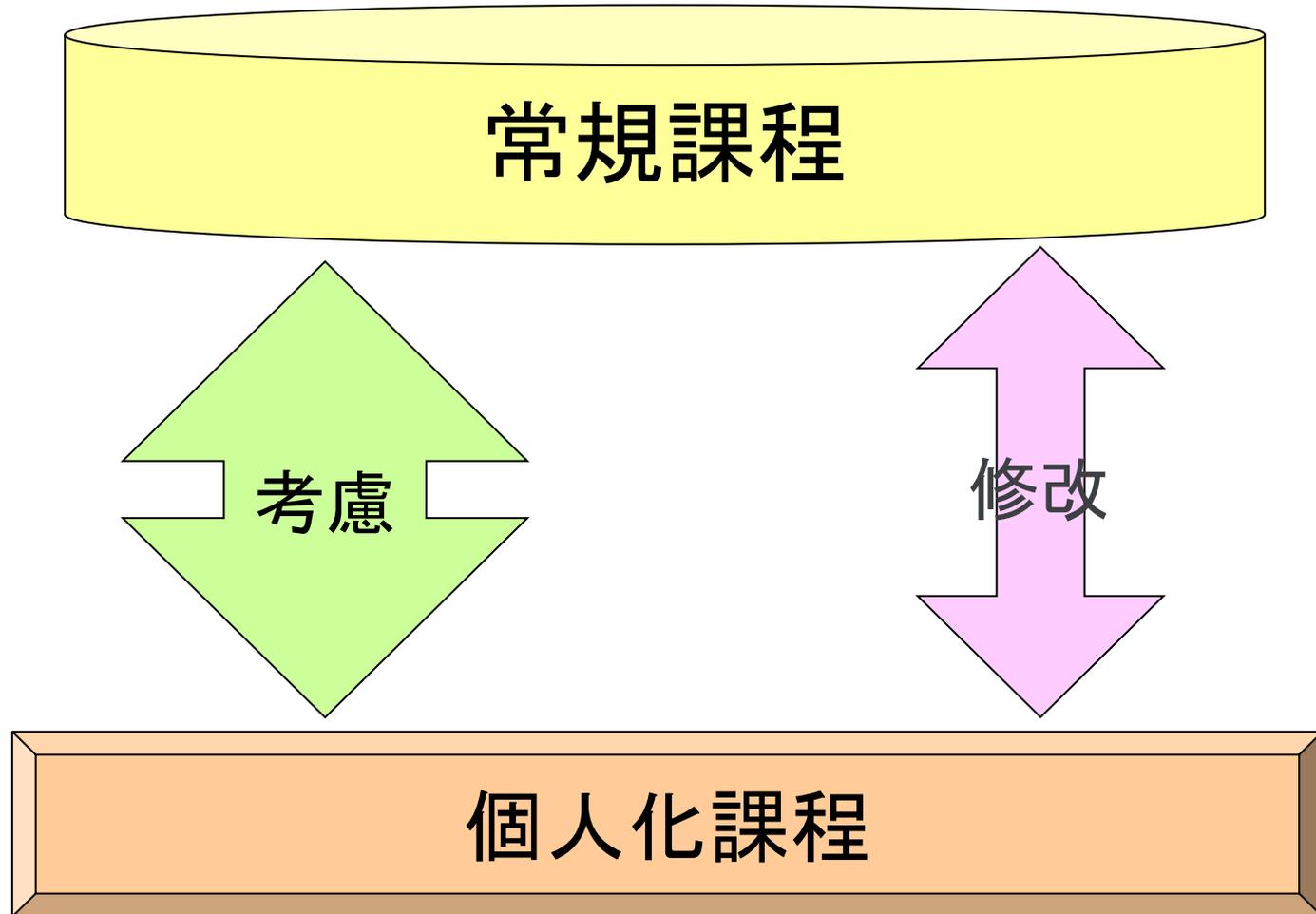
幼稚園教育要領
小学校・中学校・高等学校
学習指導要領

障害児
教育

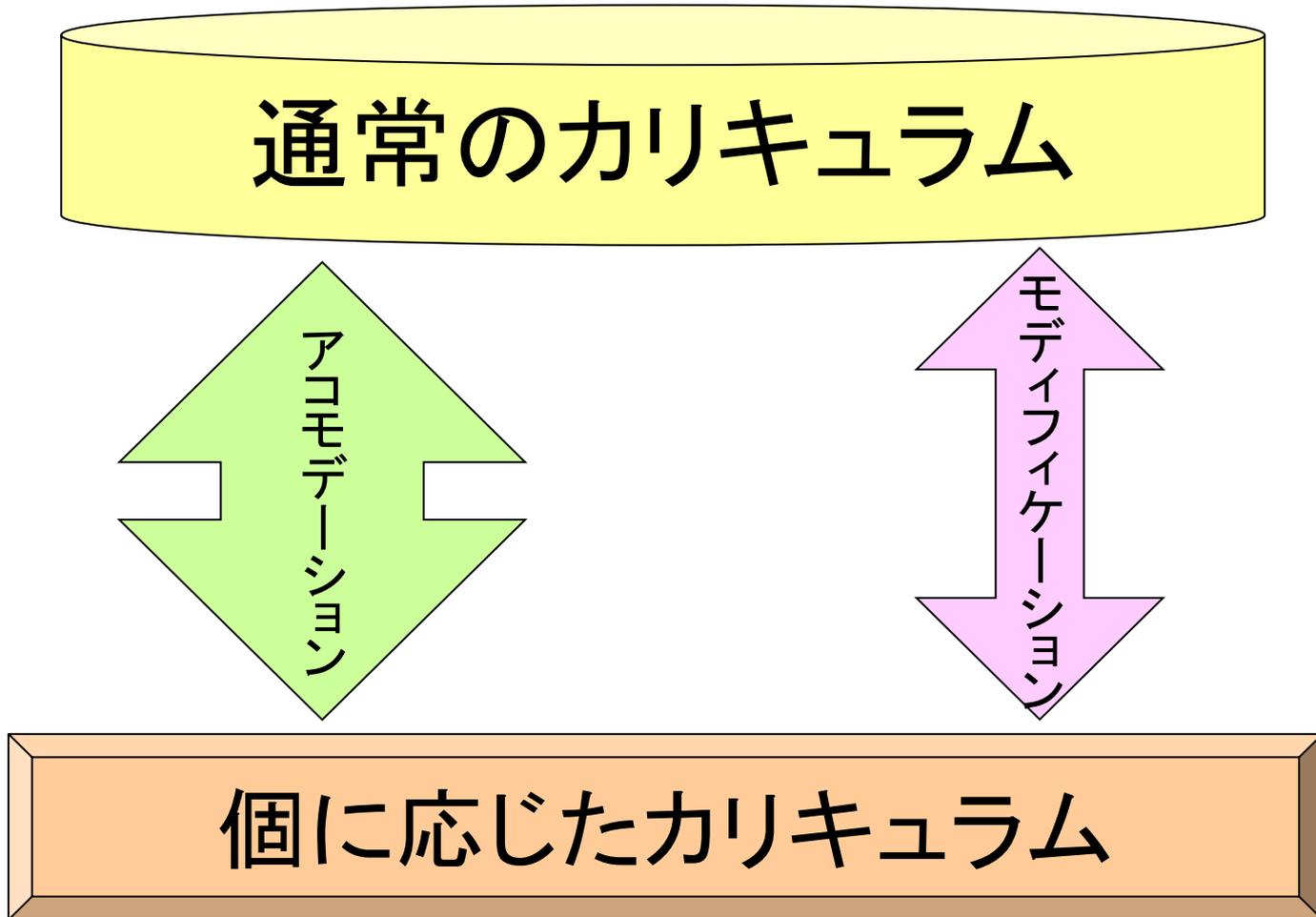


特別支援学校
幼稚部教育要領
小学部・中学部・高等部学習指導要領

統一課程的變更與調整



カリキュラムの変更・調整



考慮及修改

◆ 考慮

為了幫助身心障礙兒童理解學習內容並完成指定的任務，根據殘疾狀況等對學習環境和內容形式等進行改變。

例如：手語翻譯、語音朗讀、延長考試時間等。

◆ 修改

針對難以理解所有學習內容的孩子，對課程進行質性的改變。

例如：簡化、簡化或減少智障兒童在正規班級學習的任務。

考慮と修正

◆考慮

障害のある児童生徒が学習内容を理解し、指定された課題を達成できるよう、障害の状況等に応じて学習環境や学習内容の形式を変更します。

例：手話通訳、音声読み上げ、試験時間の延長など。

◆修正

学習内容をすべて理解することが難しい子どもたちに向けて、カリキュラムの質的変更を行います。

例：通常のクラスで勉強している知的障害の子供たちの課題を簡単にし、簡素化し、または軽減することです。

在日本合理的考慮的問題

日本における合理的配慮

與其他國家合理的考慮的差異

- ◆ 一般來說，我們會為參加常規課程的兒童提供合理的考慮。
- ◆ 它沒有具體規定合理的考慮的提供者或接受者。
(這是故意模糊的)

他国との合理的配慮の違い

- ◆ 原則として、通常の学級に通う児童に対して合理的な配慮が提供されます
- ◆ 合理的配慮を提供する実施者や提供先を具体的に定めるものではありません。

(意図的に曖昧にしてあります。)

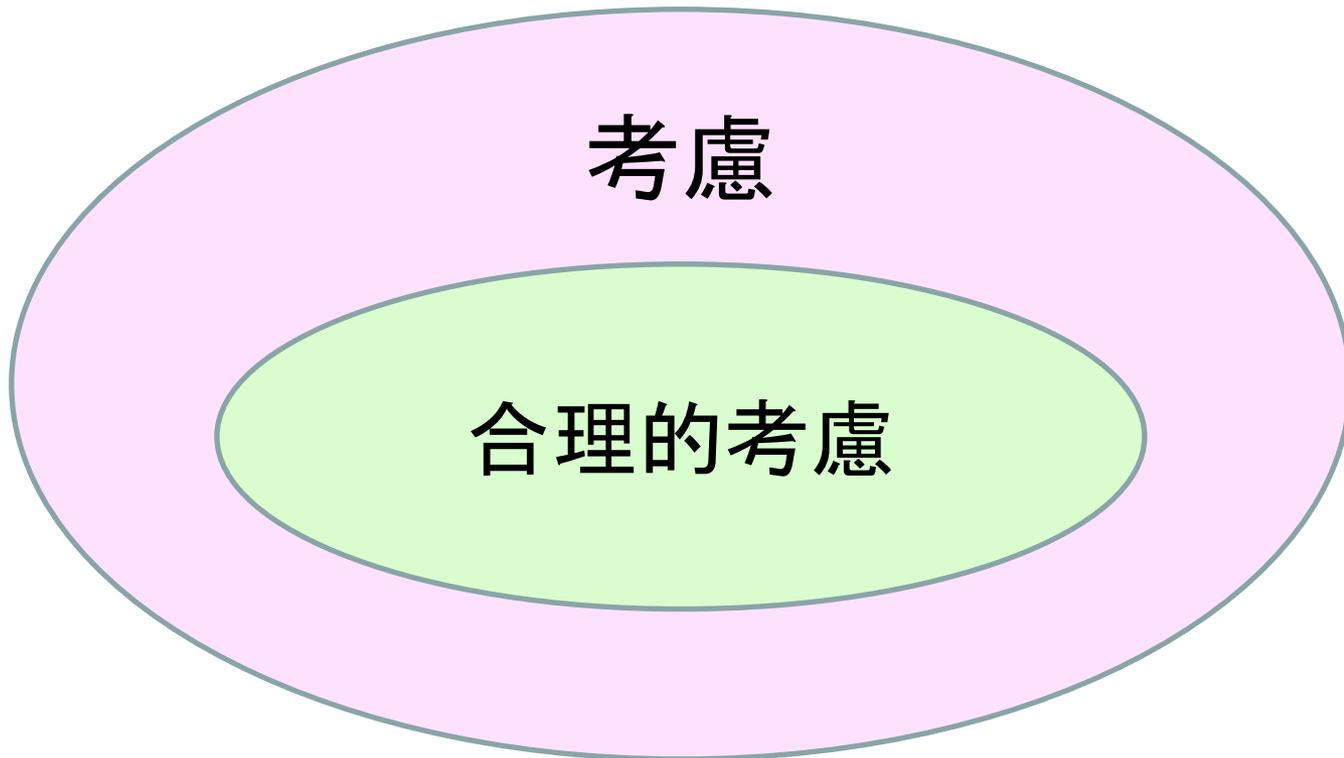
有什麼問題？

- ◆ 合理的考慮的概念沒有正確傳達給家長和其他相關方。
- ◆ 區域差異是由於合理的考慮和基本環境改善的雙重結構而產生的。
- ◆ 有人擔心支持的品質會下降，因為這與現有的考慮因素之間沒有明確的區別。
- ◆ 提供的便利條件越合理，現有支援的品質就越可能惡化。

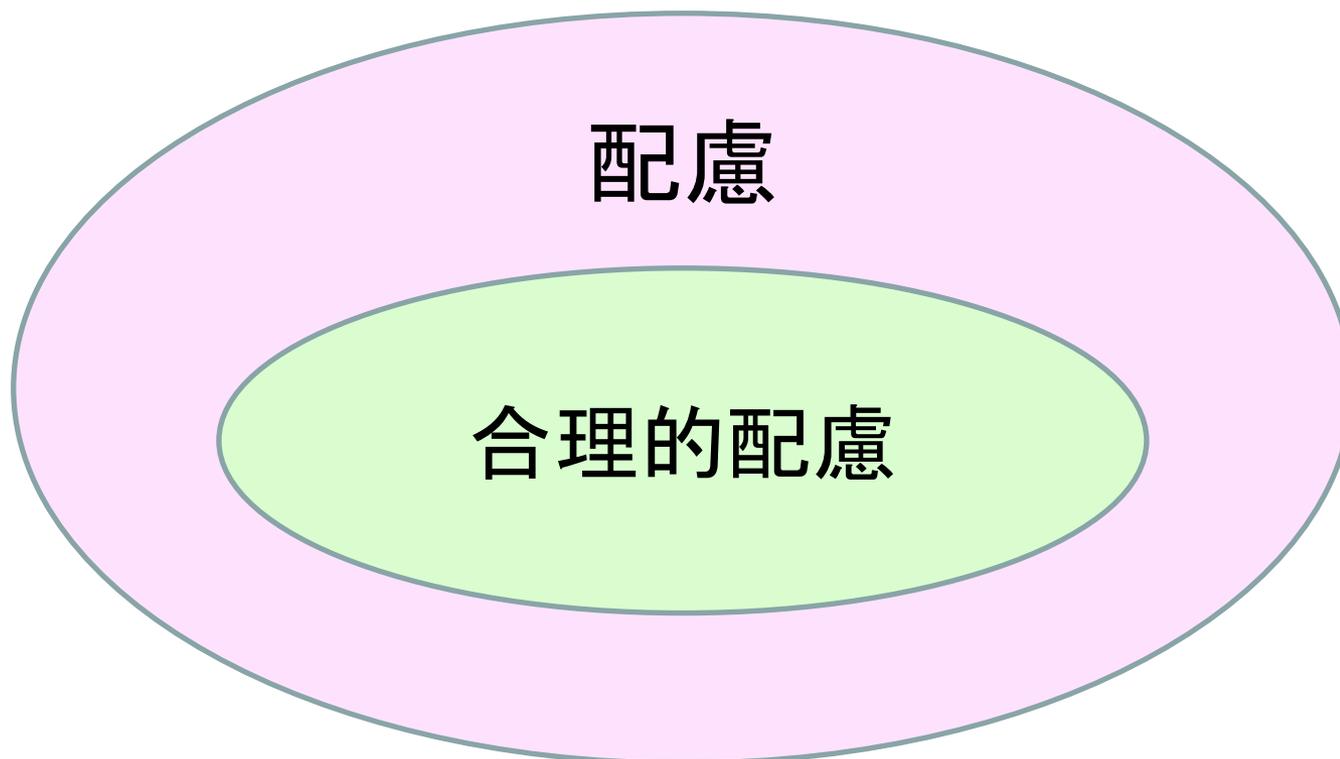
何が問題ですか？

- ◆ 保護者や関係者に合理的配慮の考え方が適切に伝えられていない
- ◆ 地域差は、合理的配慮と基本的な環境整備の二重構造から生じます。
- ◆ 既存の配慮との区別が明確でないため、サポートの質の低下が懸念されます。
- ◆ 提供される配慮が合理的であればあるほど、既存のサポートの質が低下する可能性が高くなります。

考慮與合理的考慮之間的關係



配慮と合理的配慮の関係



特殊需求學校作為當地支持 中心的角色和問題

地域支援センターとしての 特別支援学校の役割と課題

作為特殊需求學校的支持中心

◆ 基本概念

特殊需求學校預計將在發展促進當地社區特殊需求教育的系統方面發揮核心作用。特別是根據中小學就讀的殘疾兒童的教育需求，包括在普通班就讀的LD、ADHD、高功能自閉症等兒童，提供適當的教育為了實現這一目標，特殊學校需要在發揮當地中小學高水平教育專長的同時，積極支持當地中小學。

特別支援学校の支援センターとしての機能

◆ 基本理念

特別支援学校には、地域における特別支援教育を推進する体制整備の中核的な役割が期待されています。特に初等中等学校で学ぶ障害のある子どもたちの教育的ニーズに基づいて、通常の学級に在籍するLD、ADHD、高機能自閉症等の児童も含め、この目標を達成するための適切な教育を行い、特別支援学校は、その高い教育専門性を活かしながら、地域の小中学校を積極的に支援する必要がある。

作為特殊需求學校的支持中心

所有特殊需求學校承擔統一的功能並不現實；各校可依實際情況靈活應對。

以下是特殊需求學校預期的類似中心功能的範例，這些功能基於盲人、聾啞人士和殘疾人學校的先進範例。

特別支援学校の支援センターとしての機能

すべての特別支援学校が統一的な機能を担うことは現実的ではなく、各学校が実情に応じて柔軟に対応することができる。以下に、盲・聾啞・養護学校の先進事例をもとに、特別支援学校にも期待される同様のセンター機能の例を紹介します。

作為特殊需求學校的支持中心

◆ 支援中心功能的具體細節

- i. 中小學教師等的支援功能
- ii. 特殊教育等的諮詢、資訊提供功能
- iii. 對幼兒和殘疾學生的指導和支持功能
- iv. 與福利、醫療、勞工等相關組織的溝通協調功能
- v. 國小等教師培訓合作功能
- vi. 為兒童、身心障礙兒童和學生提供設施和設備的功能。

特別支援学校の支援センターとしての機能

◆ サポートセンターの機能に関する具体的な詳細

- i. 小中学校教員等へのサポート機能
- ii. 特別支援教育等に関する相談・情報提供機能
- iii. 障害のある児童・生徒に対する指導・支援機能
- iv. 福祉、医療、労働等の関係機関との連絡調整機能
- v. 小学校等の教員研修連携機能
- vi. 児童、障害児、学生向けの施設や設備を提供する機能。

強化支援中心功能的課題

- i. 保證協調員的指導專業知識和能力並發展人力資源
- ii. 作為全校人力資源發展體系的措施的重要性
- iii. 針對參與社區支持的教師的非常規措施
- iv. 確保預算
- v. 正常班級視障兒童的識別
- vi. 與相關組織的合作

サポートセンターの機能強化に向けた課題

- i. コーディネーターの指導専門知識・能力の確保と人材育成
- ii. 学校全体の人材育成システムとしての取り組みの重要性
- iii. 地域支援に携わる教員に対する臨時措置
- iv. 確実な予算
- v. 通常学級における視覚障害児の識別
- vi. 関係機関との連携

感謝您的關注！